東京の会通信

No.300

2022年1月1日号
（隔月1日発行）

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031　東京都千代田区
東神田1-3-4　KTビル3階
TEL：03-3866-8171
（FAX兼用）

http://www.marrow.or.jp/tokyo/
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

「東京の会通信」300号となりました!

長い間お読みくださり感謝です！これからもまた！

明けましておめでとうございます。「発行№300」東京の会通信が300号になりました。設立して31年目、この間多くの読者の皆様に支えられ発行を続けることができました。寄付金の減少で経費節減のため現在は隔月発行となっていますが、東京の会活動報告や患者さん・ドナーさんからのメッセージなどを掲載し続けてきました。野村正満顧問に過去の編集作業を振り返っていただきました。

30年前といま、創刊号と第300号

野村正満

- 東京の会通信の創刊号は1992年5月発行だが、実はそれ以前にも東京の会通信があった。
- 「公的骨髄バンクを支援する東京の会」の前身「公的骨髄バンクを望む東京の会」（1990年6月設立）の発行する東京の会通信だった。
- 当時の東京の会通信は原稿をワープロで活字化し、プリントアウトしたものを切り貼りして作った謄写印刷だった。オフセット印刷になったのは第14号（1993年6月）からだった。

「東京の会通信」の発行が第300号となった。この間かなりの期間は私が編集を担当していた。今回、パソコンの古い外付けハードディスクを引っ張り出して、バックアップしてあった東京の会通信のフォルダを開いてみた。そこから第14号から第204号（2009年4月）までの印刷入稿時のテキスト原稿が見つかった。第201号（2009年1月）には200号発行を記念しての座談会が掲載されている。発足間もないころ、東京の会通信の印刷環境を提供していた三瓶和義さんと事務局の千葉純子さん、そして私が当時のことを振り返っている。

以来、東京の会通信は毎月欠かさず発行を続け、事業主体の財団が出す広報よりもいち早く情報を伝える速報媒体でもあった。財団がマンスリーレポートを出すようになる前のことである。東京の会通信は発足間もない骨髄バンク事業を支援する立場と、患者とドナーの視点を持つボランティア団体の立場から、財団や行政に提言や時には批判も行うオピニオン誌としての性格も担っていたと思う。

あれから30年の歳月が経過し、状況は大きく変化してきた。東京の会通信の発行頻度も減った。しかし、今なお絶えることなく発行を続けていることは素晴らしいと思う。ボランティア運動の重要な意義は継続することである。

骨髄バンク事業の成果もめざましいものがある。かつては骨髄バンクに患者登録しても適合ドナーを見つけることは簡単ではなかった。多くの移植を希望する患者さんたちが逝った。今ではほとんどの患者さんにドナー候補者が見つかるようになった。さい帯血バンクもある。とはいえ、現在の環境を持続させていくことも大切だが、より使い勝手のよいバンクに成長させていく努力を忘れてはならない。なにしろ、ドナーがいても移植できない状況は克服しなければならない。コーディネート期間短縮は発足当初からいわれているが、歯痒いばかりだ。

東京ドナー登録会予定（1月・2月）

1月19日（水）府中運転免許試験場
1月21日（金）日本赤十字社　本社別館
1月26日（水）府中運転免許試験場
1月28日（金）都庁　第二本庁舎1階　二庁ホール
2月9日（水）赤羽駅東口

今年のコンサートはYouTubeでライブ発信

2021年11月19日19:00から、おなじみの三戸素子さん、小澤洋介さん、高田匡隆さんが演奏するベートーヴェン作曲『大公』の曲がYouTubeでライブ配信されました。昨年・今年と会場でのコンサートをコロナ禍で断念しましたが、演奏者３人からのご提案で、スタジオからのYouTube配信が実現しました。三戸さんからのメッセージと演奏を視聴した皆さんからの声を掲載します。

チャリティコンサート、初のライブ配信

三戸素子（Motoko Mito）

毎年恒例のチャリティコンサートは、新型コロナの影響で、去年から開催出来なくなりました。開催出来なくなったのはこのチャリティコンサートだけではありません。多くの職業と同様、私たち音楽家もほとんどのコンサートがストップし、お弟子さんはレッスンに来られなくなり、海外にも行けなくなりました。それでも緊急事態宣言が長びくうちに、オンラインに慣れ、レッスン等オンラインで工夫できるところは何とか継続出来るようになってきました。コンサートはしかしなかなか難しく、感染状況の合間をぬっての運任せ、客席制限もあり計画するのは困難です。

そんな中でコロナ２年目にはいり、４月の円覚寺コンサートの季節も過ぎ、きっとこの頃にはコロナもおさまっているだろうと会場予約もしてあったこの秋のコンサートも開催の見通しが立たなくなりました。

11月は、１都２県で開催されているコンサートのほかに、私たちが骨髄バンクの活動を始めるきっかけとなった、親友のピアニスト金井いづみさんの命日もある月です。コロナ禍の中でも変わらず届く、全国協議会ニュースや各地の通信から、ボランティアの皆様が出来る限りの活動を続けておられるのも伝わってきます。コロナの中、病気が消えて無くなるわけでもありません。

ピアノの高田さんも小澤も私もヨーロッパで、音楽家は社会の逆境の時は一層音楽で世界を満たすのだ、それが音楽家なのだ、という心意気を肌で感じてきました。音楽はモノではなくその場で消えて無くなる空気と時間の魔法です。それがいいのです。

今回、コンサートオンライン配信を思いつき、一から立ち上げるのは大変でしたが、東京の会の若木さんが直ぐに反応して下さり、会場のカルラホールさんのご協力、そしてチェロの小澤が自分のYouTubeチャンネルを持っており、経験があったことで、なんとか実現にこぎつけることができました。

配信当日は不慣れが重なり、スタートが遅れたり配信上の反省点満載でしたが、演奏は集中してベートーヴェンの名曲「大公」に心を込めました。YouTubeのいいところは、ライブ配信のあとも時間のあるときいつでも視聴出来ることです。先日、若木さんからYouTube配信がたくさんのご視聴をいただいていて、「投げ銭」によるご寄付も集まっている、と伺い喜んでいます。

早く感染症の脅威が去りますように。そしてかつての良い物が失われることなく、新しい手段で私たちの可能性が確実に広がる、そんな世の中が来ることを心から願っています。

◆支援者に届いたオンラインコンサート

この度の骨髄バンクチャリティーコンサートは大成功だったといって良いのではないでしょうか。コロナ禍いろいろの行事が本来の形で実施できないためオンラインで行われていますが、ピアノ三重奏の雰囲気がどこまで伝わるのか、私は多少心配しながら「大公」トリオのチラシをコピーして、ご支援いただいた教会の広報棚に入れさせてもらい、広報活動をさせてもらいました。嬉しいことにすぐに反応があり、チラシが品切れになりました。信徒さんたちが20人位のお友達に宣伝してくださったと伝え聞きました。

さて、11月19日当日、世田谷経堂の「カルラホール」を会場にして演奏が行われました。私は初めて経験するオンライン・コンサートの配信手続きを四苦八苦の末行い、画面をクリックして受信しました。心配していた音質は思ったより良質で「大公トリオ」の演奏を楽しむことができました。

演奏終了後、骨髄バンクを支援しての寄付が求められましたが、投げ銭という形式で、寄付金額に相当する金券を商品として購入し清算する方式を採用しており、なるほどと感じ入った次第です。

演奏者の皆様には、いつもながら「深く楽曲と向き合い、充分な勉強をもとに表現する、そして常に最先端である」ことを目指しての真摯な演奏を有難うございました。

支援してくださった皆様からは、私達ボランテイアの活動により一人でも多くの難病患者さんの命が守られますようにとの祈りをいただいています。頑張りましょう。

（新田恭平）

◆強く生きるきっかけをもらいました

新型コロナ禍による悲しみや苦しみは、私にも辛い日々でした。ピアノ三重奏コンサートは『負けてはいけない』と励まされた出来事です。

オンラインのライブ配信は、ガラケー携帯でパソコン不得意な私には未知のことでとまどいました。絶対にやらなくては、と思い、夫の協力で、タブレットで無事視聴できました。コンサートを以前から楽しみにしている友人から、終了後すぐに電話がきました。「コロナでピアノ譜めくりの人が離れて座り、駆け寄って譜めくりをする様子が印象的でした。こんな状況で開催され、素晴らしい演奏が聴けて良かったです」と喜んでくれました。

実は2020年３月の東京マラソンを妹とボランティア参加する約束でしたが、コロナのため応援イベントが中止になりました。その後妹の卵巣癌が発症し、私も検査を勧められて、腎臓癌がわかり、姉妹が一日違いで手術をしました。緊急事態宣言が続き、会うこともままならず、妹の癌は子宮や大腸に広がり、結局誰にも看取られずたった一人で天に

おくりました。遺言で葬儀はせず、海に散骨しました。

半年が過ぎた今も淋しさがつのり、落ちこむ毎日でした。妹が選んだ茶毘の品に、東京の会会報(2021年3月号)があり、「会いたい人抱きしめたい人がいます。その日を信じて待っています」と、私が書いた記事が掲載された会報でした。ピアノ三重奏を聴きながら、東京の会で、おんな寅さん」と呼ばれていた妹が、いつもそばにいたことを思い出しました。『また会える日がくる。それまでは精一杯大切に生きよう』そう強く心に思いました。これも演奏者の皆様の熱意とご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

(大塚礼子)

◆素晴らしい演奏者に感謝!

演奏者の三戸さん、小澤さんから、チャリティコンサートのオンライン配信のご提案があったのは9月のことでした。若木さんからのメールでそのことを知り、Zoom定例会でご本人達から直接お話を伺った時は、具体的に何をどうしていいのか分かりませんでしたが、三戸さん達の思いと実行力に「なんてすごい人たちなのだろう」と只々感激しました。

そして実はその時から、当日は三戸さん達が演奏するスタジオに行って生で聴きたいと密かに思っていました。もちろん聴くだけでなく、何か裏方でお手伝いできることがあればとの思いもありました(実際にはお役に立てることはありませんでした)。

願いは実現し、10人ぐらいまでならスタジオでの鑑賞が可能だと聞いた時は、「やった!」と心の中でガッツポーズ。待ちに待った当日は若木さんと私の2名が現地にお伺いし、目の前で三戸さんのヴァイオリン、小澤さんのチェロ、高田さんのピアノが奏でる「大公」を堪能させていただきました。

リハーサルでは、ピアノの響きやアンサンブルのバランスを、後ろの方で聴いていらした高田さんの奥様にも「どう?」などと聞きながら3人で意見を出し合って調整し、作り上げていく様子を拝見しました。オンラインと言えども演奏するからには、ステージでのコンサートと変わらない準備とクオリティを追求する姿に「やっぱりすごい!」と改めて感激しました。

時計を見ながらギリギリまでリハーサルを続け、着替えのため本番開始5分前ぐらいに終了したのですが、その時になってスタジオの時計が5分遅れていることが発覚。もう開始時間です。でも慌てても仕方ないので少し遅れて本番開始。ところが三戸さんのご挨拶が終わったところで、若木さんが自分のノートパソコンを見ながら「配信されていないみたいだ」と言い出して、配信を担当していたカルラホールのオーナーさんと小澤さんがWiFiの状態を再チェック。改めて三戸さんのご挨拶からやり直して、無事に配信が始まりました。

本番の演奏は、それはそれは素敵でした。「大公」は名曲だと思いますが、私は音楽的なセンスや感受性には全く自信がなく、どちらかと言うと楽器の音色や響きを楽しむという聴き方になってしまうのですが、この日も久しぶりに三戸さんのヴァイオリンが聴けた喜びと、深く静かにヴァイオリンを支える小澤さんのチェロの包容力、くっきりと力強いけれど繊細に行き届いた高田さんのピアノに、「これこれこれ!生で聴けて良かったー」と大感激でした。もちろんオンラインで聴いていらっしゃった皆様にも、その素晴らしさは十分伝わったと思います。

小澤さん、三戸さん、高田さん、本当にありがとうございました。本当に感謝しかありません。またステージで、たくさんのお客様の前で演奏できる日が一日も早く来ることを願うばかりです。

最後に、この演奏はいつでもオンラインで聴くことができますので、まだ聴いていない方には是非ご視聴されることを、強く強くお勧め致します。

(福永達子)

今からでも視聴できます。
「投げ銭」もお忘れなく!

QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー
(令和3年11月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	538,163	67,951	63,138
10-11月登録分	6,238	946	412
10-11月抹消数	3,445	471	−
実質登録増	2,793	475	−

患者とドナー登録・適合状況(11月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計) 877,299人
ドナー登録抹消者数(累計) 339,136人
HLA適合報告ドナー数(累計) 349,288人
実質登録患者実数(現在) 1,714人(国内1,241人)
HLA適合患者数(累計) 50,249人(患者累計数の79.6%)
非血縁移植実施数 26,122例(10-11月実施201例)

東京の会
「1月、2月定例会」
のお知らせ

1月22日(土)、2月26日(土)午後5時30分より

会場:こくみん共済coop東京会館
(旧:全労済東京会館)3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※3月定例会予定・2022年3月26日(土)午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、Zoomでも配信するハイブリッドで実施します。

東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2021
今年も大成功！

11月13日、14日の２日間、代々木公園イベント広場で「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD2021」が去年と同様に新型コロナ感染予防対策を講じたうえで開催されました。このイベントは今年で11回目を迎え、雪広場、スノーボードライディングショー、音楽ライブなどアクティビティを通じて献血・骨髄バンクに触れ社会貢献活動のきっかけになることを目的として開催されています。

今年は献血222名、骨髄バンク登録者111名を目指し、日赤、関東近隣の骨髄バンクボランティアの方々と活動しました。

◉今年は献血バス３台を迎え開催されたイベントに筆者は初日に参加しました。過去２回骨髄バンクの説明員として参加してきましたが、今年は９時半の開始直後から献血受付ブースには長蛇の列ができ終了時間まで、その列は殆ど途切れることがありませんでした。

骨髄バンクの登録や説明を聞いて頂きたいと声を掛けると快く話を聞いて頂き登録して頂ける方が多数で説明ブースも途切れることなく活動することができました。声を掛けた方の中には既に登録されている方も多数おられました。その中に、骨髄提供を行った方もおられました。

このイベントは今年で10年を迎えこれまで活動されてきた荒井daze善正さんをはじめ日赤、ボランティアの活動の成果だと思いました。一方で登録者の年齢層は30代、40代が多く継続するイベントで参加者の年齢層も上がっていると感じ、若い世代へのアピールや献血・骨髄バンクへの意識を高める必要性も感じました。

イベントの中ではスノーボードの板の長さより背丈が小さい子供達がスノーボードを楽しんでいる姿も見られました。小さいうちから献血・骨髄バンクに触れ将来、社会貢献活動に興味を持ってくれれば良いなあと感じました。

今年の結果は受付数：482名、献血実施数：402名、骨髄ドナー登録数：121名と目標を大きく上回る結果となりました。来年も「東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2022」の開催が予定されています。来年こそは新型コロナウィルスの流行がおさまり盛大に開催されることを願っています。　（光江健太郎）

◉11月13日と14日、恒例の東京雪祭でのドナー登録活動に、久しぶりに参加した。一昨年と昨年も、午前中に会場の代々木公園まで足を運んでエールは送ったが、説明員としての参加はしなかった。ほかならぬ同じ説明員資格を生かした活動を、日本骨髄バンク臨時職員として献血ルームに赴いてする予定が、お昼から入っていたからだ。今年は、骨髄バンク職員としての活動は平日にだけやることになったため、土日はボランティアの立場での活動に久しぶりに参加できた。

日赤の計らいで、受付を済ませた献血者が問診の前に必ず通る血圧測定の場所で、骨髄バンク登録の呼びかけができるように、うまく動線を設計してもらえている。だから話を聞いてくれる割合が高い。ボランティア内でも、血圧計の前に張り付いて声がけを担当する人と、そこで登録の意志がある人に説明を担当する人とに分かれて、時に応じて入れ替わりながらやるので、負担が少なく効率的にできる。

常設の献血ルームでのリクルート活動も同じようでありたいと、課題を示される思いがした。現状では、献血ルームの動線は、受付から問診・採血までの途中でドナー登録への食指が動くようには設計されていない。説明員が派遣されていても、多くの場合、献血を終えた人への「種蒔き」しかできない。即日の登録完了へもってゆくには、まだまだ工夫が必要だ。　（三土明笑）

◉11月14日開催のスノーバンクにて、初めて説明員として参加しました。朝の開始時刻より目を見張ったのは、意外にも若い方の長蛇の列でした。バンク登録の話を聞きたいと希望される方が会場内に溢れんばかり。突然「説明お願いします」と指名され、右手で持っていたマニュアルをしまい、一気に緊張と不安が高まりました。

そのような中、不安を払拭していただいたのは登録会の説明を聞いてくださった方でした。その方は私の目を見て、頷きながら真剣な眼差しで話を聞いてくださいました。その為、心を込めた説明を心掛けました。反省点は、途中説明内容が行ったり来たりしたことです。話の最後にバンク登録の有無を伺ったところ「登録します」との一言。少しでも話が伝わったと思い、自然と笑顔になりました。

その後6，７人に紹介しましたが、反省の連続です。明らかに登録要件に該当しないBMI高値の方を誘導しその方や説明員に迷惑が掛かってしまいました。今回の活動を通して最も学んだことは「登録してもらう為に、まずは知ってもらうことが大切」という言葉でした。今後一人でも多くの人が登録に関心を持てるよう、言い回し等を考えていきたいです。　（宮本奈津美）

骨髄提供者からのメッセージ

コロナ禍のドナー経験で広がった視野

Message from Donor

木村　亮太

コロナ禍の生活も1年以上経過した頃、骨髄バンクから大きな黄色い封筒が届きました。ドナー候補者に選ばれたのだろうと直感で分かりました。

私が骨髄バンクにドナー登録したのは2007年頃でした。それ以前も骨髄バンクのことは知っていましたが、映画『半落ち』や『Little DJ〜小さな恋の物語』を観てドナーに興味をもったのが登録のきっかけでした。治る病気を当たり前に治せる世の中が望ましいなと思ったこと、そして骨髄提供とは何をするのだろうという好奇心もあってのことでした。その後、2011〜2012年頃だったと思いますが、一度ドナー候補者にも選ばれていました。しかしこのときは、申し訳ないという罪悪感がありつつも、個人的に都合がつけられずお断りしました。そんな記憶も薄れていたとき、さきの封筒が届き、再度ドナーになるチャンスをいただくことができました。

今回、コロナ禍で生活がガラリと変わっていました。私が勤めている会社ではテレワークがベースになっていました。当初は慣れない働き方に苦労していましたが、1年以上経過してなんとか定着していました。通勤行為が無くなり、オフィスという場に制限されなくなり、ある程度の裁量で時間の有効利用が可能になっていました。また、健康志向の上昇と自炊の機会が増えたことで、体重を15kg減量し、健康状態も大幅に改善していました。各方面に語弊があるかもしれませんが、私個人としては、コロナ禍の結果としての生活変化はドナーを引き受けるのに好都合だったと思います。

家族の了承も得られ、事前の検査も通過して最終的にドナーに選ばれたのは、最初の通知から4か月ほど経ってからでした。のちに伺ったお話ですが、コロナ禍でのドナー選定は難航しているらしく、上のような私の感覚とは異なり、ドナーを引き受けられる候補者の数は減っているようです。生活環境の都合や、候補者のご家族のお考えなど、候補者ご本人の意志だけではどうにもならないことが多いのも理解できます。今回私がドナーの役割をまっとうすることで、少しでも患者さんや骨髄バンクに貢献できればと感じました。

私の場合、骨髄採取・末梢血幹細胞採取どちらも選べたので、なんとなく全身麻酔を避けて、末梢血幹細胞採取を選びました。採取まで毎日投与されるG-CSFによる白血球の増加反応もよく、初日だけ熱が37度0分まで上がった以外は体調不良もほぼ無かったです。ただ、採取本番では採血の速度があまり上げられず、予定より長引き5時間半かかりました。これだけ長時間身体を固定されると、さすがに終わった後は疲労感がありました。

入院は予定どおり6日間で終えられました。私は入院自体初めてでしたが、病室ではフリー Wi-Fiが使えたので、家族などとの連絡もでき、テレワーク的に仕事をすることもできたので、退院まで困ることなく過ごせました。

しかし、これも退院後に知ったことですが、このような院内生活は必ずしも当たり前ではないようです。Youtubeで見かけたCancerXと日本癌学会のイベント（https://youtu.be/sW8bbDwGAC0)）によると、国内のがん拠点病院などのフリー Wi-Fi導入は20%程度だそうで、この数字にはかなり驚きました。そして、この状況を改善するために『#病室WiFi協議会』という有志団体が立ち上がり、病院や関係省庁への啓蒙が行われていることにも強い興味を抱きました。ドナーになったのも何かの縁と思い、骨髄バンクのコーディネーターさんを通じて同団体のメンバーにお話を伺う機会をいただきました。入院患者さんが学業や仕事など社会との繋がりを必要としていること、退院後のスムーズな社会復帰を実現したいことなど、貴重な意見をいただき認識をあらためることができました。

テレワークや遠隔授業が広がりつつある今、この利点が病院に届いていないのは残念な状況だと思います。自分がもしインターネットのない環境に身を置くことになったら、入院や治療の生活に耐えられる気がしません。これはドナーを引き受けるときの判断材料にもなる気がします。今後、骨髄・末梢血幹細胞提供と移植の数を伸ばし、白血病をはじめとする患者さんが入院・治療によって社会から分断されない世の中にするために、病院・省庁や社会の意識が変わっていくこと、また自分自身に何ができるかを考え続けることが必要だと感じます。

コロナ禍でのドナー経験は、患者さんを助けるだけではなく、入院環境の現実を知り、自分の学びや成長のきっかけを与えてくれました。自分が想像していなかった世界を教えてくれたドナー経験に、私からも感謝しています。私にはもう1回ドナーになるチャンスがあります。患者さんのため、そして自分のために、積極的に関わっていきたいです。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2021.10.16～12.15)

中川里枝子さん　2,000円／㈱マルゼン　窪一昭さん　4,539円／鳥羽雅行さん　10,000円
小柴良介さん　2,000円／及川耕造さん　40,000円／匿名希望　7,000円／佐藤淳子さん　7,000円
大橋一三さん　7,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

▼2021年を振り返ると、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で年始を迎え、４月から５月にも感染のピークがありました。夏の東京オリンピック開催前後には、感染力が強いデルタ株の流行もあって感染者が急激に増加し、８月20日には全国で１日26,000人に迫る感染者が出るなど、危機的な状況に陥りました。

▼夏の第５波では、病床不足により多くの患者が自宅やホテル等での療養を余儀なくされたうえ、保健所による患者対応が機能不全に陥ったこともあり、重症化しても入院できず、十分な治療を受けられないまま亡くなる方も続出しました。国民皆保険制度の下で分け隔てなく必要な医療が受けられるのが日本の良さだったのに、それがまさに崩壊したのです。

▼政府のコロナ対策は、あまりに見通しが甘かったと言わざるを得ません。病床の確保不足や脆弱なPCR検査体制、患者対応が保健所に集中するシステムなど、最悪の事態を想定した対策ができていませんでした。これらは以前から言われていたことであり、年末年始の感染拡大が収束してから夏までに時間は十分あったはずなのですが。

▼政府の対策は「感染拡大防止の切り札はワクチン」とワクチン接種一本やりでしたが、結果として当初の予測を上回るペースで接種が進み、その効果か９月に入ると新規感染者数は減少傾向になりました。しかし、新型コロナ対応の遅れや菅総理の発信力の無さなどに批判が集まり、総裁選と総選挙を目前にして菅内閣は総辞職しました。

▼その後岸田内閣が発足するとさらに感染者数は減少し、12月15日現在、７日間平均の新規感染者数は全国で125人と落ち着いています。ワクチン接種が進んだ諸外国で感染が再拡大する中で、日本ではワクチン接種率だけでは説明のつかない低い感染状況が続いています。

▼とはいえ、デルタ株より感染力が強いといわれるオミクロン株の感染者が国内でも確認され、人流が増える年末年始を迎える中で予断を許さない状況です。あの夏の悲劇を繰り返さないために、新規感染者が少ない今のうちにできうるすべての対策を講じるよう政府・自治体に求めたいと思います。

▼一方、病床や医師・看護師など医療資源がコロナ患者へ集中し、コロナ以外の患者の入院・手術が制限されるなど、通常医療に大きな影響が出ました。今後コロナ感染が再拡大すれば、さらに通常医療への圧迫が強まることが懸念されます。

▼骨髄バンクを通じた骨髄移植数は、2020年は前年比151人減の1092人でした。2021年も11月末時点で1083人と、やはりコロナ禍の影響は否めません。また、さい帯血移植数は2020年に1496件と前年比で117件増加しましたが、2021年は11月末時点で1192件と逆に減少傾向になっています。

▼骨髄バンクの新規ドナー登録数も、2020年は年間で28,903人と前年比３万人以上の大幅な減少となり、2021年は11月末時点で29,920人とやや持ち直しているものの厳しい状況が続いています。コロナ禍で献血並行登録会などが開催できない時期が続いた影響が如実に表れています。

▼2022年も新型コロナウイルスとの闘いはまだまだ続くと思われます。私たちボランティアも、それを前提として様々な工夫や努力を重ねながら、粘り強く活動を続けましょう。皆様が健康で充実した１年を過ごせますように、そして人類がコロナ禍から解放される日が早く来ることを祈ります。　(S)

3月会報発送
「おりおり」のお知らせ

日時：2022年3月6日（日）14時00分より
※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。
※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4　KTビル3階）
交通：都営新宿線「馬喰横山」駅　徒歩５分
都営浅草線「東日本橋」駅　徒歩７分
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅　徒歩７分
JR総武快速線「馬喰町」駅　徒歩５分

※5月「おりおり」予定　2022年5月8日（日）14時00分より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようにお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。